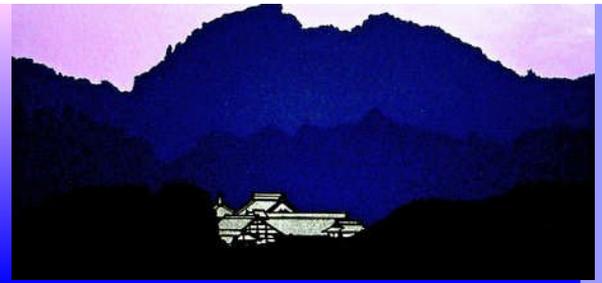


# 井の国歴史懇話会報

VOL15

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成29年8月15日



## 直大河ドラマで歴史を研鑽

武藤全裕

厳しい猛暑の続く今年の夏です。まずもって会員皆様に残暑お見舞い申し上げます。

大河ドラマ「おんな城主直虎」も大きな山場を迎えています。井伊谷徳政をめぐり、城主として井伊領内を護るため、直虎は拒否を続けてきましたが、今川の権力により、実施書に署名し、花押を押す直虎苦渋のシーンが画面に流れました。

またあくまで井伊領を我がものにする今川の野望のため、幼い虎松を殺し、その首実検(実は偽物)をする場面、ドラマとはわかっていながら、緊張感の中でスクリーンに引き込まれていました。

井伊谷城代をねらいながら、おとわへの愛を捨て切れぬ政次。その井伊谷へ徳川家康が侵攻。激動する時代の流れに翻弄される二人の運命、後半のドラマはますます佳境に入っていきます。

ついつい「おんな城主直虎」の感想文を綴りました。「井伊谷」を始めとして「祝田」「瀬戸」「気賀」等々今でも湖北に残る歴史的地名が次々と電波に乗って日本中の津々浦々まで届けられています。

遠江井伊氏六百年目の最後の領主直虎公を、ドラマと共にその歴史研鑽を深めて行きましょう。



## 29年度の予定 (敬称略)

9月20日(水)

・現地研修 「龍潭寺閑栖和尚と巡る旅」  
～新野左馬之助の里を訪ねて～

戦国！井伊直虎から直政へ

集合 8:00 龍潭寺駐車場(移動予定)

17:30解散予定

会費 7000円

コース 御前崎市新野・昼食・静岡県立美術館

定員 27名

- \* ・井伊直親・直政像
- ・直虎の花押の入った唯一の書状
- ・静岡県立美術館副館長の説明あり

11月6日(月)

屋内講座「井伊の郷に生き続ける直虎」

講師 室井康成さん

- \* 1976年、東京都生まれ。

今からおよそ30年前の学生の時に、単身で「井平城」を調べに来たことを契機に歴史や民俗を研究する道に入られ、「井伊家の歴史」から研究の道を一筋に歩んでこられた。文学博士

「柳田国男の民俗学構想」「首塚・胴塚・千人塚

日本人は敗者とどう向きあってきたのか」等多数

会場 引佐多目的研修センター 13:30分開演

2月上旬

屋内講座 仮称「NHK大河ドラマを終えて」

← 写真 「日月松図扇」(龍潭寺所蔵)のレプリカ

龍潭寺初代住職黙宗瑞淵和尚が所蔵

天正12(1584)年の小牧長久手の戦いにおいて井伊直政が軍扇として用いたと記されてある「井伊谷伝記」

本年度地域遺産センターで作成

9月8日～9月18日まで龍潭寺で展示

9月22日～1月14日まで地域遺産センターで展示

# 大河ドラマ「おんな城主直虎」記念講演会

## 井伊直虎の実像に迫る

### ～直虎は女にござる～

4月8日引佐多目的研修センターにおいて講演会並びに対談が開催されました。

第一部は柴田宏祐さんによる史料解説。

- ・井伊家伝記より「井伊信濃守直盛公息女次郎法師遁世の事並びに次郎法師と申名の事」
- ・井伊家渋川村古跡事
- ・次郎法師が川名の福満寺に献納した梵鐘の銘文
- ・龍潭寺寄進状
- ・直虎掛仏寄進の覚
- ・今川氏眞判物寫
- ・祝田郷徳政之事



等など、地元には居なくては判らない史料を多々示して頂きました。その内川名の福満寺の銘文は昨秋静岡大学名誉教授小和田哲男先生と同行し拝観した物です。

第二部は梓澤要さんの講演「引佐に生き続ける女城主直虎」

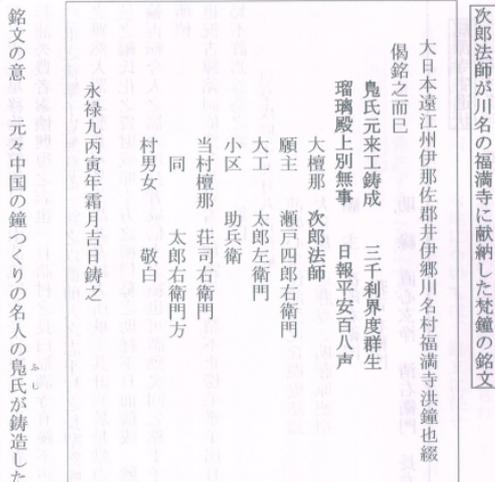
第三部は柴田宏祐さんの司会による対談。談者は武藤全裕さん梓澤要さん。

武藤全裕さんのレジメは、

- ・根拠とする一次史料
- ・南溪過去帳に記載された次郎法師の戒名について同過去帳二十六日欄を見る。
- ・月泉祐圓禪定尼について

南溪過去帳記載の「月泉祐圓禪定尼」は次郎法師の戒名でまぎれもなく女性であること。次に「次郎法師と直虎別人説についての異論」の否定論を紹介されました。

会員さんは、総会と併せての講演会で、資料は当日配布されました。



銘文の意 元々中国の鐘つくりの名人の鬼氏が鑄造した鐘である。広大な地にある全ての生きとし生けるもの、瑠璃の宮殿にあつて何事もない（瑠璃は福満寺の山号瑠璃山にも由来）日々この鐘の知らせる百人の鐘の音は平安である。

### 次郎法師直虎は女ではない

龍潭寺前住職 武藤全裕

「女にこそあれ次郎法師」『井伊家伝記』に書かれた有名な言葉である。ところが昨今、次郎法師男子説が、ちまたに流れ話題を醸し出している。次郎法師の地元として「次郎法師女性説」を以下の通り明白にする。

#### 一 根拠とする一次資料

注1 開山過去帳は過去において火災に一部に焼けた跡が残っている。南溪過去帳には開山過去帳に載せられた戒名がかなり記載されている。  
注2 この二冊に祠堂帳を加えた三冊が安政四年三月に「彦根御系譜方」により修復され「龍潭寺秘蔵」のものと箱書され、今日まで大切に保存されている。

#### 二 南溪過去帳に記載された次郎法師の戒名について同過去帳二十六日欄を見る。

（八月）月泉祐圓禪定尼 旦那二ろ法師入牌との記載あり。  
旦那（檀家）二ろ（次郎）法師との脇書あり 次郎法師の戒名である。  
注 次郎法師は天正十年八月二十六日が命日である。

#### 三 月泉祐圓禪定尼について

「月泉祐圓」が戒名、「禪定尼」は女性につける位階（くらい）。男性には「禪定門」とつける。尼は比丘尼の略で女が出家して戒を受けたものをいう。  
以上、一、二と検証した時、南溪過去帳記載の「月泉祐圓禪定尼」は次郎法師の戒名でまぎれもなく女性である。

次に次郎法師と直虎別人かの話について触れる。結論を先にいう。同一人物であるとみる。以下その根拠を述べる。

1 直虎関連文書は少ない。小和田哲男氏は「史実の直虎とドラマの直虎」の講演で八点的直虎（次郎法師）関連文書を示している。これ等は永禄七年四月より永禄十一年十一月まで出された貴重な一次資料である。この時期は次郎法師が女城主に就任、「井伊谷徳政」という井伊家にとって最大の難題を抱えた時期と重なっている。（八点的関連文書の詳細は省略）

2 永禄十一年十一月九日付文書「井伊直虎・関口氏経連署状」について連署状は永禄九年今川氏真によつて発布された「井伊谷徳政令」を直虎が二年余凍結したので、今川より関口氏経が派遣され「井伊谷徳政を即時実施する」との文書に両者が署名、花押を記したものである。

3 この文書に直虎の署名が、「次郎・直虎・花押」と記されている。  
注 蜂前神社所蔵のこの文書は当時女性領主では使用出来ない花押（今日でいう実印）が記されている全国でも只一つの珍しいものである。